

1 研究主題

よりよい学級生活の実現を目指し、
本気になって学級活動に取り組む子どもの育成

2 主題の意味

(1) 「本気になって学級活動に取り組む子どもの姿」とは、

以下の4点のことであると考える。

- ① こんなクラスにしたいという思いをもっている子ども
- ② みんなの問題を自分ならどうするか一生懸命に考えている子ども
- ③ 本当にできるかどうかを考えて話し合っている子ども
- ④ すすんで力を合わせている子ども

つまり、学級目標を子どもたちの願う具体的な姿として設定し、その目標に向かって学級生活を送る上での身近な問題を見付け、自分のこととして捉えて解決に向けて取り組み、活動を振り返ることで、よさを認め合っている。これらの一連の活動を繰り返し行うことで、より意欲的に取り組む子どもを目指す。

(2) これまでの本校の研究から

本校は、これまで7年間、オンリーワン校として、縦割り班活動や学級活動を中心に特別活動の研究を重ねてきた。自分たちの手で学校や学級生活を豊かにすることができることや、自分たちの問題を話し合い、解決していくことのよさなどを、経験を通して理解してきている。子どもたちの願いをまとめた丁寧な学級目標づくりに始まり、それを意識したよりよい学級生活の実現を目指す学級活動へ向け研究を進めてきた。具体的な取組としては、以下の通りである。

- 基本サイクル(問題への気付き→事前の活動→話し合い→実践)を設定し、繰り返し活動を行ってきた。その結果、子どもたちは学級目標を意識し、身近なことから議題を選定し、学級目標に近づこうと力を合わせ本気で取り組む姿を各学級で見ることができるようになった。
- 折り合いを付けて、集団決定をするために話し合いの流れをパターン化し、自尊感情を高めるために、ノートやカードを活用した振り返りを重視することで、児童の意欲を高め、自己評価や価値付けを行うことができた。

しかし、昨年度の研究の課題として、2点が挙げられる。

- ① 発言する児童とそうでない児童に分かれ、発言に偏りがみられること。
- ② 議題の内容がマンネリ化し、生活の問題を解決していくような議題へ広がりが見られなかったこと。

それぞれの解決策として、次のことが考えられる。

- ① どの児童も話し合いに関われるような、話し合いの手立ての工夫をさらに進めていくことや、意欲を高めるような手立ての工夫。
- ② 学級の目標や生活の目標などを振り返る手立てを講じることで、自分たちの課題に気付かせ、その課題を解決するためにはどのような活動が必要かに気付かせることで、議題を選定する。

本年度は、この2点を見直して取り組み、本気で自分たちの生活づくりに向かう子どもの姿を実現していく必要がある。

3 研究の仮説

学級生活や目標を振り返る中から課題を見付け、その解決のために、自分たちに必要な議題を見つけ、計画委員会の指導と話し合いの手立ての工夫を進めることで、自分たちの諸問題に気付き、よりよい生活に向けて、本気になって学級活動に取り組む児童が育つであらう。

4 仮説実証のための具体的方策

※リーフレットを基本とし話し合いを進める。 (今年度の取組み 太字)

(1) 話し合いの流れをパターン化する。

- ① 「出し合う」「くらべ合う」「まとめる (決める)」の順序で話し合いを進める。
- ② **計画委員会の事前指導の工夫。**
 - ・意見を短冊に書き、操作しながら、分類・整理してくらべやすくする。
 - ・賛成、反対マークの色を変えて貼る、話し合いの過程が分かるようにする。
(議題によっては、賛成反対のみの話し合いにならないような工夫も必要とする。)
- ③ **学級目標などの振り返りを工夫し、課題に気付かせ議題に反映させるようにする。**
(振り返りとしてレーダーチャートなどを活用する。) 個人→学級

(2) 教材・教具・学習環境の整備を図る。

- ① 学級活動コーナーの設置
議題・提案理由・柱の掲示、**提案から活動までの足跡を写真とともに残して掲示する。**
背面黒板に、学級活動コーナーを設置する。
- ② 学級会グッズの工夫と効果的な活用
 - ・短冊・議題箱・司会者名札・時計 (タイマー)・・・
- ③ 活動計画表の作成と活用

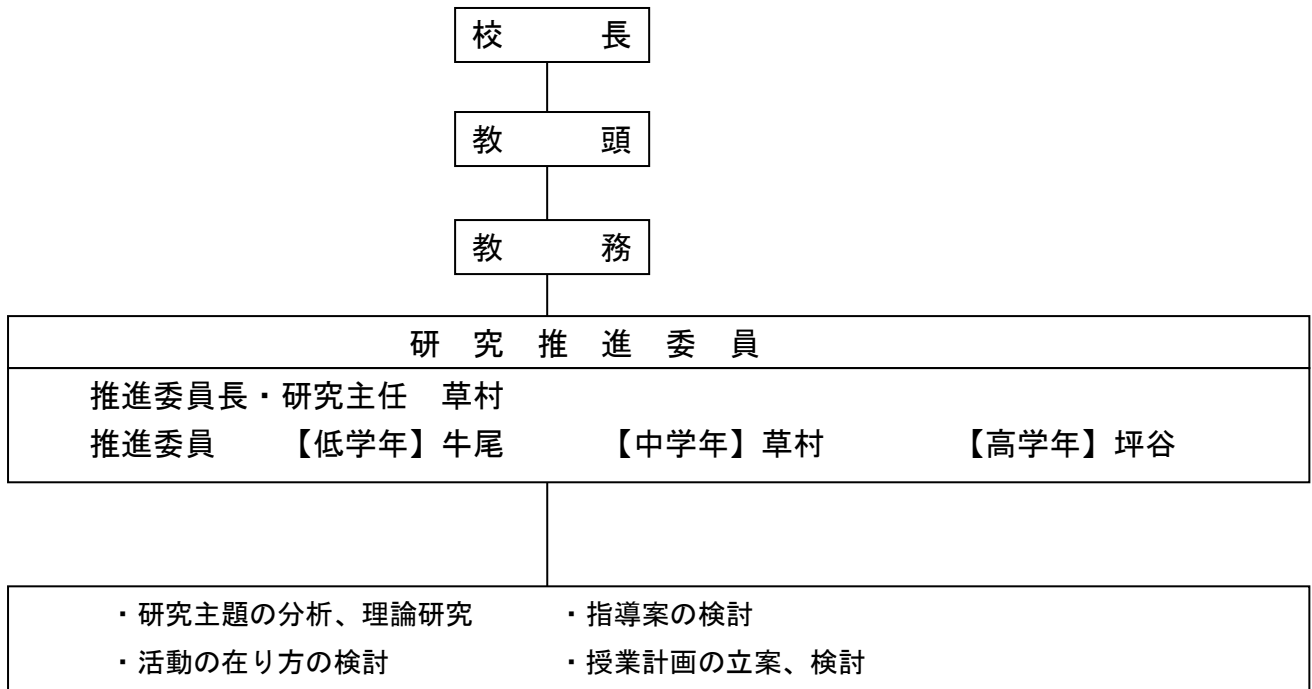
(3) 自己評価の方法、価値付けの方法を工夫する。

- ① 学級会個人ノートの活用 (本時は机に出さないようにする)
 - ・学級会の前に書き、自分の考えをもって話し合いに臨むことができるようにする。
 - ・事前に教師が目を通し、提案理由からそれた意見は、個別に指導する。
 - ・学級会だけでなく、活動後の振り返りも記入できるようにする。
- ② **アンケートの内容の工夫**
 - ・学級活動を通しての児童の変容が数値化できるようにアンケートの内容を工夫する。

(4) 教師の指導・助言・支援

- ① 人権を侵害するような発言があったときや話し合いが混乱したとき、提案理由や話し合いのめあてからそれたときは、その場で指導・助言を行う。
- ② はじめの教師の話は行わない。
- ③ 計画委員会への指導・助言 (事前の活動の充実)
- ④ 毎週水曜日の朝の活動として、「ミニ学活」を設ける。この時間を有効に使い、児童に付けたい技能の指導・助言を行う。(議題の見付け方や選定の方法、司会や記録などの仕方、円滑な学級会の進め方、役割分担、振り返りの仕方、ノートの書き方等)
- ⑤ 週末の「先生の話」の工夫
 - ・前回の学級会と比べてよかったこと
 - ・次回の学級会に向けての課題

5 研究組織



6 研究の計画

(1) 年次計画…3年次計画の3年目として、昨年度の課題も踏まえ、

「学級生活の身近な問題の解決に向けた手立てを講じ、他教科との関連を図った系統的な指導法の研究」を進めていく。

(2) 年間計画

① 活動内容

1 学期	2 学期	3 学期
<ul style="list-style-type: none"> ・研究組織づくり ・課題把握 ・実態調査（アンケート） ・年間指導計画立案 ・授業計画 ・具体的方策の検討 ・全員研（低・中・高） 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の再確認 ・環境整備 ・主題研究 ・オンリーワン公開授業（全学級） ・評価考察 ・実態調査（アンケート） ・授業の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・まとめと反省 ・計画修正 ・提案授業 ・次年度の計画 ・研究紀要作成

② 研修計画（授業研の計画）

1 学期	2 学期	3 学期
4/13 小石プロジェクト 4/28 主題研修（提案） 6/9 主題研A研 6－1（坪谷学級）	9/21 主題研B研3－ 10/5 主題研A研3－ 10/12 主題研B研6－2 （山本学級）	未定

7/1	全員研 公開授業 1-1 (牛尾学級) 4-1 (草村学級) 5-1 (古川学級)	10/21 10/26	オンリーワン公開 研修会 (全学級) オンリーワンを終 えて		
7/6	主題研B 2-1 (柘田学級)				
7/13	主題研				

※ オンリーワン公開授業は、全員授業。

※ A研…下学年・上学年から1人ずつ。B研…下学年・上学年から1人ずつ。C研…A研・B研以外全員。

※ 授業者は公開場面の資料だけでなく、活動全体にわたって写真や子どもの感想文等の記録を残しておく。

※ 授業者は、別途提案する「実践のまとめ」を12月26日(金)までに提出する。

7 指導案の様式

第〇学年〇組 学級活動指導案

指導者□□〇〇□〇〇

1 □議題 (題材)

□□□「■■■」
□

2 □児童の経験と能力の実態

○□本学級の児童は、■■■■■
■■■■■
■■■■■
■■■■■

○□これまでの話し合い活動では、■■■■■
■■■■■
■■■■■
■■■■■

3 □議題選定までの経過 (題材設定の理由)

○□本学級の児童は、■■■■■
■■■■■
■■■■■

今回は、「議題までの経過」です。
議題を決めた経緯です。このような流れ
でとかポストに入ったなどの流れをかき
ます。

4 □ねらい

○□■■■■ (個人)
○□■■■■ (学級集団)

5 □目標

評価の観点	本活動における具体的な児童の姿
共同してよりよい生活をつ	○ ~しようとしている。

くる関心・意欲・態度	
共同してよりよい生活をつくる力	○ ～している。
共同してよりよい生活をつくる知識・理解	○ ～している。

6 □具体的な指導の手立て

(1) □計画・準備 (事前)

○□■■■■■

■■■

○□■■■■■

○ ■■■■

■■■■■

(2) □学級会 (本時)

○□■■■■■

■■■

(3) □実践活動・振り返り (事後)

○□■■■■■

■■■

(4) 振り返りの手立て

○□■■■■■

具体的な手立てについて

① 議題について

- ・議題箱、声かけ、場づくり、
- ・計画委員 (選定会議)

② 柱の工夫について

- ・「何について」「どこまで」「どのように」
- ・事前の活動の中で、45分間という中で。

③ 自分の言葉で語る子にするために

- ・個人ノートに自分の考えを書かせる。
- ・仲間・一人で考える時間の設定
- ・相談する時間の設定
- ・つながる話合いにするために・・・
- ・話合いの流れが分かる工夫 (可視化)

※このようなことを内容に応じて記入してください。

7 □事前の活動

主な活動	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)

8. 本時の展開 □学級会 (本時) □平成24年○月○日 (○) □○校時□ (於□○年○組教室)

(1) 本時のねらい [例]

集会の内容やプログラムの発表形態を話し合う活動を通して、だれもが楽しめる「1学期がんばったね集会」を計画することができるようにする。

(2) 準備 [例]

教師：黒板掲示用プレート (議題・提案理由・柱1・柱2 など)

